夢と志【学校通信】

平成 25 年 5 月 7 日
第 49 号

西中の風

伊丹市立西中学校長
豊田　實

～『信頼と笑顔』毎日1,500の思いやりあふれる学校生活 ～

５月５日「国民栄誉賞」授与式を見て

本日の全校朝礼では、連休中東京ドーム球場で行われた国民栄誉賞授与式を話題にしました。多くの人々にとって明るくなれて、勇気を与えられることだったと思います。

長嶋茂雄氏（当時巨人軍監督）の指導のもと松井秀喜氏（元巨人、ニューヨークヤンキース選手）は、師弟関係の信頼によってきびしい練習に意欲的に臨みました。そして、世界で活躍する一流選手となりました。恵まれた素質があってもなまけずに練習、練習の毎日で天才になった選手です。また、野球ファンを大切にしていることはもちろんのこと、恵まれない人たちへの励ましも継続するといった社会貢献をしています。

長嶋氏の見えないところでの努力も半端ではないようです。４月上旬受賞が発表されてから、始球式のためにバットを手にして毎日３０分間素振りしていたというから並々ならぬ精進を続けてきた人生がこのことからもうかがえます。ミスターと呼ばれた往年のスター選手が発病（脳梗塞）で倒れた後にも、意気消沈したままではなく臆せず大勢のファンの前に姿を現しました。プロ野球の第一線で華々しい活躍をして大人も子どもも打撃や守備に魅了されたことは記憶に残っています。超人的な美技を体現していた人が、今は、リハビリ生活に懸命になって全国の多くの人を励ましています。長嶋氏の手記には、「落胆はあったが、すぐに気持ちを切り替えられた」とあります。「よし、この病気と真正面から闘ってやる、負けるもんか」と心の中で誓った、と記されています。

ハンデのある現状を受け入れる勇気は、実は簡単なことではないかもしれません。凡人にとっては、精神面と身体のハンディキャップがわが身にふりかかった際に分かってはいても素直に受け入れられない煩悩が生じるのではないでしょうか。言うまでもありませんが、すごい人だと思います。私の親父が大の阪神ファンだったのでアンチ巨人でした。判官贔屓（ほうがんびいき）から強い巨人軍を負かす相手チームを応援することもありました。しかし、長嶋氏の生き方には多くの人々が語るように感服しています。勝負を超えた崇高な信念と行動力があるように感じられます。

ここで話しの方向を変えますが、本校では、生徒たちが知識を持ち、思考力、判断力を備えてスピーチ力（表現力）を身に付けさせようとの方針があります。授与式での安倍首相、長嶋氏、松井氏のスピーチを生徒たちはどのように聴いたのでしょうか。よい話題だと思います。

東京ドーム球場では数万人の人が真剣に耳を傾けました。テレビ放送によって日本中の人も視聴していました。

「感謝があり、努力があり、偉業があり、信じて貫き通す人生があり、人と人の出会いがあり、友情があり、逆境からのふんばりがあり、喜びと感激があり、祝福があり・・・」と生徒たちも考えるのではないでしょうか。

お二人の受賞によって、広く国中の人々へ‘前向きに生きることのすばらしさ’が伝えられたことは誰もがうなずけることでしょう。

５月２日参観授業

裏面も掲載あります

受　賞（ゴールデンウィーク期間）

優　勝　北摂大会
女子テニス部

優　勝　伊丹市中学校春季大会
男子バスケットボール部

準優勝　伊丹市中学校春季大会
サッカー部

準優勝　伊丹市野球協会長旗争奪大会
野球部

３　位　伊丹市中学校春季大会
女子バスケットボール部

３月22日新入生テストのため来校

地域で活躍する吹奏楽部

４月７日稲荷祭　会場　住友電工株式会社

★ご存じですか、本校ホームページには

▼　配布に先行して掲載

平成 27 年（現 2 年生以降対象）公立高校選抜新制度について抜粋で紹介しています。

1年生保護者様もご覧ください。

▼月間行事予定に加えて

年間行事予定もトップページ左列をクリック

アクセスをおすすめします